

2022 耐久茶屋～Force One-Fourth の宴～



公式通知 No. 2

JASC
J.A.S.C. Foundation

2022年11月 1日

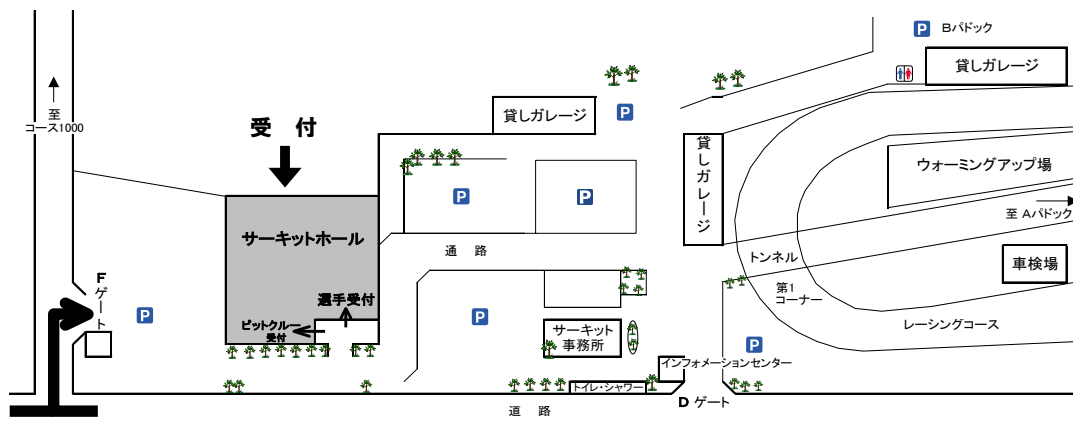
主催：一般財団法人日本オートスポーツセンター (JASC)

1. ライダー受付 (筑波サーキットホール)

提示物 : ①2022MF J競技ライセンス、FT2は参加申込資格ライセンス (提示できない場合には出場できません)

②参加受理書 ③車両仕様書・装備申告書 (記入してから受付にお持ちください。) ④問診票 ④チーム主張用紙

※健康保険証およびMF Jメディカルパスポートは、各自必ず所持をすること。(受付時確認します)



2. ビットクレー受付

(1) 今大会は、MF Jビットクレーライセンスの確認は行わない。(ビットクレー受付は行いません)

(2) 参加受理書に押印済みのパスを同封する。ビットクレーとして登録されていない人がパスを使用するなど、不正が発覚した場合には、その当該ライダーとビットクレーに罰則が科せられ、次回以降の大会に参加できない。

(3) ビットクレーの変更がある場合は、必ず受付時に変更願を提出しなければならない。

変更料は、MF Jライセンス所持者は、1名につき1,100円、ライセンスが無い者は1名につき2,200円とする。

(4) ビットクレーの追加は、保険の関係上できない。

(5) 事前販売したパドックバスではビットレーン、スターティンググリッドへの入場はできませんのでご注意ください。

3. ライダースミーティング (ホームストレート上)

全てのライダーおよび参加代表者を対象に、ホームストレート上にてライダースミーティングを行います。皆さんが安全に走るための重要事項の説明を行いますので必ず出席してください。

4. ライダー腕章

(1) ライダー受付時に腕章を配布します。走行時には必ず左右の上腕部に着用してください。

(2) 腕章の色分けは下記の通りとします。ライダー腕章は、色によって個人を識別するものです。走行順とは関係ございません。したがってエントリー時に登録した順番の色を装着してください。

第1ライダー：赤色 / 第2ライダー：緑色 / 第3ライダー：黄色

5. 公式車両検査

(1) 場所 : Aパドック内車検場 (2) 時間 : タイムスケジュール参照

(3) 提示物 : ①車両 ②車両仕様書・装備申告書 (両方受付押印済の物) ③燃料給油装置 ④消火器 (薬剤容量1.8kg以上)

⑤ヘルメット、脊柱・胸部プロテクション

※脊柱および胸部プロテクションは、CE規格適合品でなければならない。(詳細はMFJ国内競技規則参照)

※レーシングスーツの外側に装着する飲料補給装置は使用できません。

(4) 車検場には必ずアンダーカウルを外して車両を持ち込み、また、アンダーカウルも持参してください。

(5) 車検合格時の内容 (ヘルメット等の装備を含) から変更のある場合、必ずその内容を車検場に申告し、再度車検を受けてください。

(6) 競技中、音量に疑いがあると判断された車両に対して随時音量測定を実施することがあります。

(7) 車載カメラの搭載を希望する場合には、車両仕様書の記入欄に署名し、事務局確認印を得ること。また、カメラを搭載した状態で車検を受けること。※競技の抗議資料としての利用は認められません。

(8) トランスポンダーを搭載した状態で車両を持ち込むこと。取付場所は、メインフレームピボッドシャフト付近とする。

(トランスポンダー及び取付けホルダーの破損、紛失については、実費をお支払い頂きます。本体(税込):50,000円/ホルダー(税込):1,000円)

※今大会の車両検査は、MFJのガイドラインに則り、簡素化した形で実施いたします。装備申告書には、メーカー名、製品名など、できるだけ詳細を記載の上、提出してください。但し、大会期間中のランダムチェック、スタート前チェック時、レース終了後の検査において違反が確認された場合は、罰則の対象となります。また18歳以下の選手は、MFJに登録されているエアバッグを使用(着用)が必須となります。

6. ビットの使用

(1) 指定ビットの変更を希望する場合、当該者間で了解の上、変更届を公式予選終了時までに大会事務局まで提出してください。

(2) 11・32番ビットはオフィシャルの待機場所のため、使用することができません。

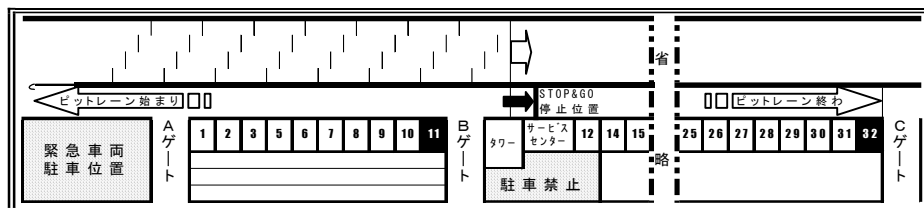
(3) 多量の電気を必要とする場合は、各チームで発電機をご用意ください。

(4) ビットには、必ず消火器(薬剤容量1.8kg以上)を用意してください。

(5) ガソリンの保管・運搬等には、必ず金属製携行缶を使用してください。※ガソリンの扱い(携行缶含む)には十分ご注意ください。

7. コースイン・コースアウト

- (1) 公式予選・グリッド整列の場合のコースインはBゲート（コントロールタワー横）より行います。
- (2) 公式予選・決勝を通じ、コースアウトはCゲート（32番ピット脇）にて行います。



8. 公式シグナル

- (1) ライダーは提示される公式シグナルを確認する義務があります。走行中、オフィシャルが公式シグナルを示した場合、各ライダーはそれに従わなくてはなりません。公式シグナルを無視した場合には重大な罰則が科せられる場合があります。
- (2) レース中の公式シグナルは、MF Jロードレース競技規則を適用します。
- (3) 旗のかわりにライトを使う場合があります。黄色灯の点灯・点滅は黄旗、赤色灯は赤旗と同意味です。
- (4) ピットレーン先端（ピット前）のシグナルはピットレーン専用です。緑はコースイン可、赤はコースイン不可を意味し、無灯の場合は緑灯と同様に扱う、また、公式予選およびレース中は常にピットレーン出口で青ライトが点滅される。
- (5) タイムが著しく遅いライダーおよび危険な走行をするライダーに対して、黒旗を提示してピットインさせる場合があります。

9. 公式予選・決勝グリッド

- (1) タイムトライアル公式予選でグリッドを決定します。
- (2) タイム計測を受けるライダーの制限はありません。国際ライダーの出走も可能です。時間内でのライダー交代は許可されます。
- (3) 決勝グリッドの決定方法は、エントリー確定時点の台数により、各クラスの比率を求める。この比率を基に決勝グリッドをクラス毎に分配し、それぞれの決勝進出台数を決定する（案分比例方式）。端数は四捨五入する。決勝グリッドに並ぶ順番はクラスの違いを考慮せずタイム順とする。
- (4) 予選正式結果1～40位をForce 1（2.5時間耐久）、41位～をForce 2（1.5時間耐久）とする。

10. スタート前チェック

スタート前チェックの時間内に連絡のないチームは、オフィシャルの判断によりリタイヤとみなされます。

11. スタート方法

- (1) 決勝レースのグリッド数は**40台**、スタート方式は**ル・マン式スタート**とします。
- (2) スタートはスタaggerド（時間差）スタートとし、スタート時差は結果に考慮されませんのでご了承ください。
第1グループ：20台、第2グループ：20台（もしくは残り台数）
- (3) スタート手順
 - ①ピットレーンよりコースインし、ゆっくりコースをまわってホームストレート上各自指定のグリッドに整列してください。
 - ②グリッド上でタイヤウォーマーの使用およびタイヤウォーマー用にジェネレーターの使用が認められる。マシン1台につきハンディタイプのジェネレーター1台迄可能とする。ジェネレーターは、ピットレーン・コンクリートウォール際に置いて使用すること。但し、スタート進行遅延の原因となる場合は、規則を変更する場合もある。
 - ③整列した車両は、指示があるまでエンジンを始動することができません。
 - ④スタート3分前、**全ての作業・調整（タイヤウォーマー取り外し含む）を終了しエンジンスタート（スタートまでエンジンは始動したままとります）**。スタートライダーは反対側（メインスタンド側）に移動してください。スタートの合図があるまで自分の車両の方に移動することはできません。
 - ⑤控えのライダー1名は**ヘルメットおよび長袖長ズボン（サンダル履禁止）**を着用し、車両の後尾を支え待機となります。又スタートライダーが**エアバックベストを着用する場合、エアバックハーネス取付け要員を1名加えることができます。（ヘルメット、長袖長ズボン着用）**他のチーム員はこの時点でピット内に退避していること。尚、この時点では車両の整備を行うメカニックの人数に制限はありません。
 - ⑥フラッグタワーより日章旗の合図があったとき、スタートライダーはコースを横断して自分の車両に駆け寄りスタートとなります。
 - ⑦スタートでエンジンストールまたは正常にスタートができない場合、全車スタートし安全が確認された時点でフラッグタワーからグリーンフラッグを提示、その後に控えのライダーの補助による押しがけスタートが可能となります。
 - ⑧エンジンが始動しない場合、フラッグタワー下センターゲートもしくはコンクリートウォール最前方の安全地帯までライダーが車両を移動させ、メカニックの作業を得てスタートすることができます。移動する場所はオフィシャルの指示に従ってください。
- (4) スタートライダーの指定はございません。

12. タイヤの使用本数制限

- (1) タイヤの使用本数制限は、公式予選・決勝を通じて使用できるタイヤは1セットとします。但し、ウェット時には解除されます。
- (2) **公式車検前にタイヤマーキングを行う。レース使用タイヤを装着して車検を受けてください。**
- (3) ウェット時に限りレーシングレインタイヤの使用が認められますが、スリックタイヤにグルーピング・カッティングを施したものの使用は禁止されます。

13. ピットレーンの速度制限

- (1) ピットレーン走行中の事故は重大な事故につながります。ピットインの際は周りに充分に気を配り、スピードを落として常に停止できる状態で走行してください。尚、ピットレーン制限スピードは**40km/h以下**とし、違反した場合には罰則が科せられます。
- (2) ピットレーン速度制限区間はコンクリートウォール設置区間とし、スピードの測定は光電管測定器・移動式スピードガンで行います。

14. ピット作業・ピットサイン

- (1) 修理および燃料補給の作業人数は、ピットクルー3名とライダー2名の**計5名**までです。

- (2) 当該車両がピットインした時のみ、ピットクルーは自己のピット前の停止区域に出て作業することができます。ピット作業の場合を除いて停車区域に出る事と、部品や工具を停車区域に置いておくことは禁止です。
- (3) ピットクルーの行動範囲には制限があり、サインマンおよびピットインした当該車両のメカニック以外はピット作業エリアに出ないでください。従わない場合にはその当該ライダーとピットクルーに罰則が科せられます。
- (4) 走行中のライダーに対しピットサインを送ることができますが、無線機等の使用は禁止です。
- (5) ピットサインを送るピットクルーは1チーム2名までとし、イエローラインまで出てサインを送ることができます。

15. ライダー交代

- (1) 登録されたライダーは、必ず1回以上走行しなければなりません。但し、負傷などやむをえない場合この限りではありませんが、必ず事務局に届け出なければなりません。
- (2) ライダー交代は自己ピットでのみ可能、必ずエンジンを停止させて行わなければなりません。
- (3) マシントラブルにてコースアウトし、パドックに戻った後でレースに復帰する際(20項)、ライダー交代する場合にはその旨をCゲートのオフィシャルに申告しなければなりません。

16. レース中における燃料補給

- (1) 使用する燃料の量についての制限はありません。
- (2) 給油装置は、車検に合格したものを使用してください。
- (3) 燃料補給方法は、金属製タンクもしくは金属製携行缶からの重力落下式に限ります。
- (4) 給油のために簡単に着脱できる取り替えタンクを使用することは禁止です。
- (5) 給油装置はやぐら等を組んで高所に設置するなど、その他の方法でピットエリアに固定してはいけません。
- (6) 給油装置のパイプエンドの口径は、内径25mm以内に制限されます。
- (7) 燃料補給時には、車両はジャッキ・スタンド等で完全に支えられていなくてはなりません。
- (8) 燃料補給中はエンジンを停止し、他のいかなる作業も行ってははいけません。ライダーが乗車した状態での給油も禁止です。
- (9) 燃料補給中ピットクルー1名は必ず消火器(消火器については燃料補給を行うピットクルーの人数に含まない)を持って待機していなければなりません。また、こぼれた燃料、オイル等は必ず各チームで処理してください。

17. レース中の車両修理

- (1) ピットインした車両は、自己の作業エリアにおいてピットに準備してある部品、工具等による修理、調整、部品交換などができます。
- (2) エアーツール・電動ツールなどの使用は禁止です。
- (3) フレーム本体、クランクケース本体、ギヤボックスのキャスティング部品以外の故障部品は交換することが可能です。サイレンサーを交換することは可能ですが、その際は車検長に申告し許可を得なくてはなりません。交換前のサイレンサーは車検場保管となり音量を測定する場合があります。
- (4) コース・グリーン上での車両の修理は、応急処置を除き一切禁止です。
- (5) レース中の車両は、いかなる場合にも他から援助を受けて押し出したり走行したりしてはなりません。ただし、保安の目的でオフィシャルが車両を移動したりする場合及び自己のピットを通り越した停車区域内の車両を当該車両のライダー、ピットクルーが押し戻す場合(この場合、車両の向きは変えずにバックのまま押し戻してください)、コースアウトして戻る場合はこの限りではありません。

18. フルコースコーション

- (1) フルコースコーションとは、事故発生時にライダー又はオフィシャルが危険な状況にはあるがレースを中断するほどではないと競技監督が判断した場合、セーフティーカーがスロー走行で先導しながらレースを一時中立化している間に事故処理を行う方法です。
- (2) フルコースコーションが決定したら、直ちに各ポストにおいて黄旗振動と「SC」と書かれたボード(SCボード)が提示され、セーフティーカーの介入を告知します。その後イエローの回転灯を点灯したセーフティーカーが先頭のライダーの位置に関係無くピットレーンからコースインします。
- (3) 全ての車両はセーフティーカーを先頭に一列に整列してください。この時、ライダーの追い越しは厳禁とされ、ライダー間の距離は10m(車両5台分程度)以内までとします。セーフティーカーの介入は原則的に1台ですが、2台目が介入する場合があります。
- (4) トップのライダーをペースカーの直後に配置させる、いわゆる「頭出し」は行いません。セーフティーカー介入中の周回は、周回数としてカウントされます。
- (5) フルコースコーションの間にもピットイン・ピットアウトすることができます。ピットアウトできるのは、ピットレーン出口にあるグリーンライトが点灯されている間のみとなり、セーフティーカーに先導された最後尾のマシンがピットレーンを通過後約10秒間のみグリーンライトが点灯します。それ以降はレッドライトによりピット出口は閉鎖されピットアウトできなかったライダーは、次の周まで待たなければなりません。
- (6) レース再開が決定したら、セーフティーカーはイエローの回転灯を消灯し、その週の終了時点でピットに入ります。
- (7) セーフティーカーが最終コーナー立ち上がり付近のイエローラインをカットしてピットレーンに入り、ライダーがコントロールラインに近づいてきた時点で、フラッグタワーでグリーンフラッグが振動表示され、同時に全ポストの黄旗振動とSCボードは下げられます。各自がコントロールラインを通過した時点でフルコースコーションは解除され、競技再開となります。ただしコントロールラインを通過するまで、追い越しは厳禁です。
- (8) フルコースコーション中も競技時間および周回はカウントされます。

19. スロー走行車両およびコース上での車両の押し歩きについて

- (1) ポストの前方にスロー走行車両が存在する場合、白と黒の斜め2分割旗を表示します。
- (2) コース上でライダーがマシンを押している場合、黄色地に黒文字で「PUSH」と書かれたボードを提示します。
尚、車両を押し歩きます際、オフィシャルの指示なく進行方向とは逆への移動やコース横断することは禁止されます。押し歩きますライダーはコースサイドのウレタン際に沿って、後方に注意しながら車両を移動すること。



20. マシントラブル時のコースアウトおよびレースへの復帰について

- (1) マシントラブルでピットまで走行して戻ることが困難な場合、指定された場所からコースアウトすることができます。
- (2) コースアウトした後は、ピットクルーによる人力の補助により自己のピットに戻ることが可能です。
- (3) 但し、そのコースアウトした当該周は無効となります。

- (4) コースアウトできるのは以下の6箇所とします。オフィシャルの指示に従ってコースアウトしてください。
- ①第1ヘアピン左側(Bパドックメディカルセンター付近) ②第1ヘアピン手前S字コーナー右側(ドライバーズサロン横)
③ダンロップコーナー先左側 ④5番ポスト脇連絡通路 ⑤第2ヘアピン立ち上がり左側 ⑥ホームストレートエンド左側
- (5) パドックインした車両は、マシンチェックエリアにて必ず車検員によるトラブル状況のチェックを受けなければなりません。チェックが済んだ時点でパドックでの修理が可能となります。マシンチェックエリアは、A・Cゲート付近に設置します。
- (6) 車両がコースに復帰する場合はCゲートからとし、車検員によるチェックの上、コースインしてください。

21. ペナルティ

- (1) ジャンプスタートをした場合は、ライドスルーペナルティーが科されます。
- (2) ショートカットおよびピットレーン先のホワイトラインカットを行った場合には、その当該周無効のペナルティが科せられます。
- (3) フルコースコーション中にレッカー車で回収された車両に対して、当該周無効のペナルティが科されます。
- (4) ペナルティとしてピットストップが科される場合、回数ごとに停止時間が加算されます。2回目は1分、3回目は3分、4回目は5分、以降5分ずつ加算されます。尚、ペナルティの度合いによっては失格となる場合や、停止時間が異なる場合があります。
- ※ペナルティストップの指示を受け3周以内にピットインせずペナルティを実行しない場合は、大会審査委員会の判断により、失格を含む厳罰が科せられます。
- (5) レース終了までにペナルティが消化できない場合、ペナルティ累積回数分の周回数(ペナルティが1回目は1周、2回目は2周…)が減算されます。但し、ペナルティの度合いにより厳罰となる場合があります。

22. 競技の終了および順位決定

- (1) 規定の時間を完了した時点で、トップのライダーにフラッグタワーよりチェッカーフラッグが振られます。
- (2) 正式なレースの終了は、チェッカーフラッグによりトップのライダーがゴールインした後2分間が経過した時とします。
- (3) 天候その他の理由により、定められた時間を減算しレースを終了する場合があります。
- (4) 途中でレースが中断された場合でも、最初の正式なレーススタートからレース設定時間を越えないものとします。
- (5) チェッカーフラッグが提示された時点で、ピットインしていた車両のコースインは禁止されます。
- (6) 順位は周回数の多い順、同一周回数の場合はコントロールラインの通過順(ピットレーン含む)にて決定します。複数のヒートレースの場合も同様となり、各ヒートの周回数を合算し、周回数の多い順に決定される。同一数回数の場合は、最終ヒートのコントロールライン通過順となる。

23. 暫定表彰式および賞典

- (1) レース終了後、NT2、NS2は1～3位、N250F、FT2は1位のチームを対象にメインスタンド前コース上にて暫定表彰式を行います。
- (2) チェッカーを受けたマシンは、そのままコースを1周しピットレーンに入ってください。その後、暫定表彰対象車のみ、コース上に車両を移動していただきます。
- (3) 決勝正式結果発表後、下記のチームに対し正賞の楯および副賞を授与します。MFJライセンス等の身分を証明するものを持参しサービスセンターまでお越しください。

クラス	対象順位	クラス	対象順位	クラス	対象順位	クラス	対象順位
NT2	1～6位	NS2	1～4位	N250F	1位	FT2	1位

- (4) Force 2 (1. 5時間耐久) は、レース終了後、総合順位1～3位のチームを対象に、メインスタンド前コース上にて暫定表彰式を行います。(タイムスケジュールの都合により、行われない場合もございますのでご了承ください)

※暫定表彰式でコースへ入場の際は、全員マスクの着用必須でお願いします。

24. 車両保管・再車検について

レース終了後に、正賞対象マシンは、車両保管・再車検を行います。暫定表彰式後、オフィシャルの指示に従ってマシンをAパドック内車検場まで移動してください。尚、マシン返却の際、盗難防止の為にライダーのMFJライセンスまたは運転免許証等の身分証明が可能なものを必ず持参するようにしてください。

25. 違反行為に対する罰則について

- (1) 違反行為に対する罰則は、MFJ国内競技規則に準じます。
- (2) ルール・マナー違反に対しては、そのライダー、参加代表者およびそのピットクルーに罰則が科される場合があります。
- (3) オイルをコース上に撒いた当該ライダーおよびチームに対して罰則を科す場合があります。十分に整備しておいてください。
- (4) 大会関係者への暴力的な言動及び行動には、その軽重によりMFJ国内競技規則 第4章 MFJ裁定規定に基づき罰則が科されます。

26. 医療施設の利用義務

- (1) ケガをした場合には必ず最初に医務室で診断を受けてください。医務室に診断記録がないと保険がおりない場合があります。
- (2) サークिट指定病院 : 茨城西南医療センター病院 〒306-0400 茨城県猿島郡境町2190 TEL:0296-87-8111

※ご注意ください

最終コーナー立ち上がり左側、赤白緑外側の回避レーン(緑色の部分)は、転倒や接触を防ぐ為の緊急回避スペースとなり、原則この回避レーンを通常走行レーンとしての使用は認められていません。これに違反した場合は、罰則の対象となる場合がございますのでご注意ください。また、一度路側帯に出た車両がコースに戻る際の接触事故が発生しています。細心の注意を払うようお願いします。

本通知に記載されていない事項は、MFJ国内競技規則、本大会特別規則(虎の巻)に準じます。



2022耐久茶屋
～Force One-Fourthの宴～
大会事務局長 渡邊 徳仁